

## 琵琶湖・淀川流域対策に係る取組について ～令和5年度 取組報告～

令和6年4月25日

本 部 事 務 局

「琵琶湖・淀川流域対策に係る研究会 報告書（平成28年9月）」等を踏まえて設置された水源保全連絡会議（流域府県市で構成）においては、令和5年9月に立ち上げた「いのち育む“水”のつながりプロジェクト」（以下「プロジェクト」という。）に基づき取組を実施した。また、琵琶湖・淀川流域対策に係る研究会を開催し、同連絡会議の取組等について報告を行った。

### いのち育む“水”のつながりプロジェクト（令和5年度～令和7年度）

#### プロジェクトⅠ 流域の現状と課題の共有

- ① 流域府県市で構成する水源保全連絡会議において、水源保全や水循環に関する対策及び将来リスク等をマッピング
- ② 同会議で将来リスクへの対策等について議論し、大阪・関西万博のレガシーを生かして対応すべき長期的な課題や取組の方向性等について検討・整理

#### プロジェクトⅡ 水のつながり等の情報発信

- ① 流域の一体性について理解が深まるよう、水循環等に関するシンポジウムを開催
- ② 大阪・関西万博において、水のつながりや将来リスク等を情報発信

#### プロジェクトⅢ 住民等の参画による機運醸成

- ① 琵琶湖・淀川水系等において、他団体との連携により清掃活動を実施
- ② 学生などの若者世代が水循環等について理解を深める機会を創出

## 1 水源保全プロジェクトチーム会議による取組の推進

大阪・関西万博を見据えた取組（プロジェクトⅠ及びプロジェクトⅡ・②）を集中的に推進するため、水源保全連絡会議内に、水源保全プロジェクトチーム会議（流域府県市の農林部局担当者及び有識者（アドバイザー）等で構成）を設置した。

### (1) プロジェクトⅠ

- ・流域府県市から様々な情報（森林整備の実施箇所、田んぼダムの取組箇所、水にまつわる資源・文化等）を収集し、マッピング作業を実施。
- ・同会議において、「水循環等に関する講義」（京都大学防災研究所 田中賢治教授）を受講し、森林・林業や田園・農業における課題等について意見交換を実施。

### (2) プロジェクトⅡ・②

- ・大阪・関西万博での展示手法や情報発信の内容等について意見交換を実施。

【会議等の開催概要】

令和5年	8月	10日	第1回水源保全連絡会議（取組の方向性について）
令和5年	9月	23日	第158回広域連合委員会（プロジェクト立ち上げ）
令和5年	11月	7日	第2回水源保全連絡会議（取組の進め方について）
令和5年	12月	27日	第1回水源保全プロジェクトチーム会議（森林・林業関連）
令和6年	2月	20日	第2回水源保全プロジェクトチーム会議（田園・農業関連）

2 琵琶湖・淀川流域シンポジウムの開催

【日 時】 令和6年3月14日（木）14：00～17：15

【場 所】 グランフロント大阪 ナレッジシアター

【テ ー マ】 水を意識し つながりを感じる

～健全な水循環の継承に向けて～

【参加者数】 150名（web視聴者を含む）

【プログラム】



三日月広域連合長 開会挨拶

特別講演	拝啓 浦島太郎さん ～琵琶湖・淀川流域 ver.～ 三遊亭 わん丈 氏（江戸落語家）	
基調講演	水循環の仕組みと気候変動等に伴う水不足リスク 田中 賢治 氏（京都大学防災研究所 教授）	
パネルディスカッション「貴重な水を将来に引き継ぐために」		
話題提供①	淀川左岸地域を中心とした流域連携活動の取り組み 石田 裕子 氏（摂南大学理工学部 教授）	
話題提供②	プラスチック汚染に立ち向かう ～脱プラスチック、そしてサーキュラーエコノミーへ～ 原田 禎夫 氏（同志社大学経済学部 准教授）	
活動紹介	海から、川から、まちから考えるごみ問題 同志社大学経済学部及び大阪商業大学公共学部の学生	
会場参加型 ディスカッ ション	パネリスト	三遊亭 わん丈 氏、田中 賢治 氏、石田 裕子 氏、 原田 禎夫 氏、学生
	モデレーター	多々納 裕一 氏（琵琶湖・淀川流域対策に係る研究会 座 長、京都大学防災研究所 教授）



三遊亭 わん丈 氏 特別講演



田中 賢治 氏 基調講演



パネルディスカッション

### 3 琵琶湖・淀川流域対策に係る研究会への報告

【日 時】 令和6年3月28日(木) 10:00~11:40

【形 式】 web 会議

【出席者】 多々納裕一委員（座長）、石田裕子委員（副座長）、中村正久委員

【議 事】 （1）水源保全連絡会議の取組について  
（2）プラスチック対策検討会の取組について

【主な意見】

#### （1）水源保全連絡会議の取組について

- ・シチズンサイエンス（市民参加型の科学研究）として、府県市民から森林の土壌サンプルを提供してもらい、流域全体の森林整備の効果を解析してはどうか。
- ・大阪・関西万博の会場でマップ等を展示する際には、水源保全のバックボーンとなるような基本的な行政制度や、下水や上水など水質の問題も含めた全体のシステムの話があるとよく分かると思う。

#### （2）プラスチック対策検討会の取組について

- ・この30年間で、琵琶湖・淀川水系における非特定汚染源対策の研究成果が蓄積されてきた。非特定汚染源対策の研究分野においては、概念構築や施策への落とし込みが行われてきており、プラスチックごみ問題と関連があるので、参考になると思う。
- ・研究成果は出ているように見えるが、施策にどうつながるかが分かりにくい。施策につながるような実験的な取組（例えば万博会場でのペットボトルのデポジットの実施等）を行ってはどうか。
- ・今後も市民や関係自治体と協力して、データ収集を継続してもらいたい。また、プラスチックごみの削減に資する施策を実施した地域と実施していない地域で、データを比較・分析してはどうか。
- ・ごみ対策といった観点に加え、生態系への長期的影響といった点で、マイクロプラスチック問題は重要である。関西広域連合のセミナー等で市民に分かりやすく情報発信してはどうか。